

MERS（中東呼吸器症候群）

-Middle East Respiratory Syndrome-

ほけせん便り154号

2015年06月発行

保健管理センター

（主に厚生労働省・外務省ホームページより引用）

MERSとは

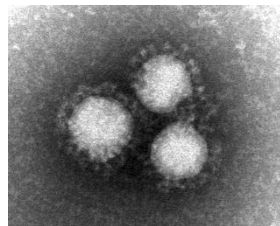
2012年、中東地域への渡航歴を有する重症肺炎患者から、はじめてMiddle East Respiratory Syndrome Coronavirus（MERSコロナウイルス）が分離されました。これは、新種のコロナウイルスで、このウイルスの感染によって発症する疾患が、MERS Middle East Respiratory Syndrome（中東呼吸器症候群）です。その後、中東地域に居住または渡航歴のある人、あるいはMERS患者との接触歴のある人から、この疾患の症例が継続的に報告され、医療施設や家族内等において限定的なヒトからヒトへの感染が確認されています。

MERSの症状

潜伏期間は14日以内で、主な症状は、38℃以上の発熱、せき、息切れなどです。下痢などの消化器症状を伴う場合もあります。MERSに感染しても、症状が現われない人や、軽症の人もありますが、特に高齢の方や糖尿病、慢性肺疾患、免疫不全などの基礎疾患のある人で重症化する傾向があります。死亡率は、一般的に40%弱とされています。

MERSコロナウイルスのワクチンと治療

現在、MERSコロナウイルスに対するワクチンはありません。治療は、対症療法にとどまります。



（国立感染症研究所ウイルス第三部・感染症疫学センター）

MERSが発生している地域・国

主として中東地域（アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、オマーン、カタール、ウェスト、サウジアラビア、ヨルダン、レバノン）で患者が報告されています。このほか、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、北米からも患者の報告がありますが、これらはすべて、中東地域で感染した人（輸入症例）もしくはその輸入症例患者と接触した人であることがわかっています。本年5月11日に韓国において発生した輸入症例については、明らかな接触歴がなかったこと等から診断が遅れたことや、医療機関における院内感染対策の不徹底等により、医療従事者や同じ病棟の患者やその家族に二次感染が多数発生しています（6月8日現在の患者数87名、死亡者数6名）。韓国における伝播は中国にも及んでいます。

MERSコロナウイルスの感染経路

人がどのようにしてMERSコロナウイルスに感染するかは、まだ正確には分かっていませんが、ヒトコブラクダがMERSコロナウイルスの感染源動物の一つとされています。ヒトからヒトへの感染は限定的で、その連鎖的感染の報告はありません。家族間や、医療機関における患者間、患者－医療従事者間など、濃厚接触者間での感染が、主な事例です。ヒトからヒトへの感染においては、飛沫感染が主様式と推定されていますが、詳細は不明です。同様に飛沫感染で伝播するインフルエンザウイルスに比較すると、感染力は弱いようです。

海外渡航に関する注意喚起

MERSが発生している地域・国への渡航について、行政は以下を励行するように呼びかけています。

【旅行前】高齢者や、糖尿病、慢性肺疾患、免疫不全などに罹患している人は、MERSに罹患しやすいので、旅行の前にかかりつけ医に相談し、渡航の是非について検討する。

【旅行中】手洗いを励行する。加熱が不十分な食品をさげ、果物、野菜は食べる前によく洗う。咳やくしゃみがある人や、動物（ラクダを含む）との接触は避ける。人ごみを避け、外出に際してはマスクを着用する。

自分に咳、発熱などが出現した場合は、他者との接触を最小限にし、咳エチケットを実行する。日常生活に支障が出るレベルの症状である場合は、医療機関を受診する。

【旅行後】帰国時に発熱や咳などの症状がある場合は、空港内等の検疫所へ相談する。帰国後14日以内に、発熱や咳などの症状がみられた場合には、最寄りの医療機関を受診する。その際は、事前に医療機関に連絡し、MERSの発生地域・国に滞在していたことを告げる。症状がある間は、他者との接触を最小限にするとともに、咳エチケットを実行する。

代表的情報提供サイト

厚生労働省検疫所ホームページ

<http://www.forth.go.jp/news/2014/05/071434.html>

外務省海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

